

ひとよし農業・最適化推進運動

農委会名：人吉市農業委員会

1 地域の概要

人吉市は、熊本県の南部、人吉盆地の最南端に位置し、東西21.6km、南北22.1km、総面積210.48㎢で、日本三急流の1つ「球磨川」が東から西へ本市の中央部を貫流し、渓谷を蛇行しながら、延長100kmの流域を経て八代湾に注いでいる。

北緯32度12分36秒、東経130度45分45秒の位置にあり、熊本市・鹿児島市及び宮崎市へいずれも約70kmの等距離の内陸部に位置している。

中心部標高海拔105.7m、耕地は標高100から160mの地帯と標高600から700mの高地にまで散在しており、水田地帯は沖積土、畑は洪積土である。気候は比較的恵まれた気象条件だが、盆地のため多霧多霜で著しい気温の差がある。

農業では、水稻・葉タバコ・桃・栗をはじめ、地域の特性を活かした畜産・野菜・果樹など多様な農業経営が展開されている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 10人（うち、認定6人、女性2人）
- (2) 推進委員数 15人（うち、認定4人、女性1人）
- (3) 事務局体制 4人（専任）

3 掲げた目標

- | | |
|--------------------|------|
| 担い手への農地の集積・集約化(新規) | 30ha |
| 遊休農地の解消面積 | 7ha |

4 目標達成に向けた取組み(運動)の内容

○ 担い手への農地の集積・集約化

- ・ 市の農業振興課の水田台帳と農地台帳を照合してやみ小作を抽出し、戸別訪問にて利用権設定のお願いをした。
- ・ 農地集積加速化事業で市内の1か所を農業振興課や県、農業公社と連携し、地域の推進委員を中心に担い手への農地集積に向けての話し合いを行った。
- ・ 他4地区の営農改善組合の会議に参加し、今後の集落の方向性や集積計画等について話し合った。
- ・ 認定農業者や市議会議員との意見交換会を開催した。別段面積の見直しや「人・農地プラン」の農地集積・集約化での課題などについて意見を交換した。



○ 耕作放棄地の解消

- ・ 耕作放棄地について、農地の管理、担い手以外との利用権設定などのお願いを戸別訪問し行った。
- ・ ひとよし「食と農の絆づくり」プロジェクト会議（部会）が主になり、市内の耕作放棄地を再生し、地元の小学生を対象とした農業体験及び食育活動を展開しながら農地の借り手を探した。



5 取り組みの成果

- 水田台帳との照合から抽出したやみ小作リストや農地の利用意向調査から行った戸別訪問により、やみ小作の解消を含めて担い手へ約32haの新規集積ができた。うち、農地集積加速化事業で集積を推進してきた1か所での集積面積は約3.4haであった。
- 耕作放棄地の解消においては、戸別訪問等でやみ小作が少しずつだか解消されてきていることや、新規の掘起しで純粋なA判定からの耕作の再開が約1ha（非農地化は含まない）あった。

また、ひとよし「食と農の絆づくり」プロジェクト会議が主となり委員全員で実施している耕作放棄地を再生活用した農業体験活動は、小学校（2校）の児童約597人で、学年ごとにさつまいもや大根など、播種から管理、収穫までを行っている。食育活動としても食や農業の大切さへの理解を深めることができた。一般の方を対象とした野菜づくり体験には、16組総勢39人が参加した。

6 課題と今後の方針等

- ・ 大型機械が入らない水はけが悪い耕作放棄地は、借り手が見つからないことから、農業農村整備事業の団体営事業などを活用していきたい。しかしながら地域での話合いが難しいため、今後は「人・農地プラン」の実質化に向けた話し合いの中で進めていく。
- ・ やみ小作の解消に未相続による諸問題があり困難を極めているため、所有者不明農地（相続未登記農地）の公示制度等を活用していく。
- ・ 農業体験などの参加者が減り、継続すべきかの検討が必要となってきた。
これまで行ってきた活動を、7月から新体制となる農業委員等へスムーズに引継ぎ、目標に向けてより一層の推進を行えるように勉強会を開催していく。